

(お 知 ら せ)



平成17年 1月13日
日本原子力発電株式会社

レーザー濃縮技術研究組合の放射性廃棄物の保管管理について

当社は、レーザー濃縮技術研究組合の解散に伴い、同組合構成者を代表して、本日、同組合の放射性廃棄物及び放射性廃棄物貯蔵建屋の引渡しを受け、別紙の通り、この放射性廃棄物の保管管理を行うこととなりましたので、お知らせします。

なお、当社が同組合の放射性廃棄物を保管管理する計画であることは「平成16年度東海発電所、東海第二発電所の事業計画の概要について」(平成16年5月13日公表済)でお知らせしております。

(別 紙)

レーザー濃縮技術研究組合の放射性廃棄物の保管管理

以 上

＜別 紙＞

レーザー濃縮技術研究組合の放射性廃棄物の保管管理

1. 概要

当社は、レーザー濃縮技術研究組合の解散(平成16年度末予定)に伴い、同組合構成者を代表して、平成17年1月13日、同組合の放射性廃棄物及び放射性廃棄物貯蔵建屋の引渡しを受け、この放射性廃棄物の保管管理を実施致します。

2. 放射性廃棄物の数量

放射性廃棄物は、200リットラム缶などの金属容器にて、保管します。

その貯蔵量は、200リットラム缶換算で 2, 912本であり、劣化ウラン、天然ウランなど、約1, 430キログラムが含まれます。

3. 放射性廃棄物貯蔵庫の場所及び構造

(1)場所

同組合が使用している「固体廃棄物貯蔵庫(レーザー)」(以下「貯蔵庫」という。)を継続使用して、放射性廃棄物の保管管理を実施します。

(2)構造

貯蔵庫は、鉄骨造、1階建(高さ約9m)の準耐火構造であり、貯蔵庫の放射性廃棄物保管能力は約3, 000本(200リットラム缶換算)です。また、貯蔵庫の延床面積は約1, 000m²で、貯蔵庫を含む廃棄物貯蔵建屋全体の延床面積は約3, 500m²です。

以上